

調査研究実施計画一覧

No	タイトル	研究期間 (年度)	部会	担当課	ページ
1	次世代シーケンサーを用いた臨床検体中の病原ウイルスの探索	R5～R7	保健	保健科学課 (ウイルス担当)	1
2	福岡市における環境水中の抗菌薬の実態調査	R5～R7	環境	環境科学課 (水質担当)	2

調査研究実施計画書

		分類	D		
タイトル	次世代シーケンサーを用いた臨床検体中の病原ウイルスの探索				
担当課・ 担当者氏名	ウイルス担当:宮本道彦 讃井武蔵 松平美咲				
調査研究期間	令和5年度 ~ 令和7年度				
目的及び必要性	<p>感染症発生時において、その後の感染拡大を防止するために、迅速かつ網羅的に病原体を探索し、特定することが求められている。</p> <p>当所におけるウイルスの主な検査手法として、培養細胞への検体の接種(ウイルス分離)及び既知ウイルスの(RT-)PCR法がある。しかし、ウイルス分離に適さないウイルスの存在があること、PCR法は1度に検査できる項目に限りがあること等から、迅速かつ網羅的に病原体を探索することは現状困難である。次世代シーケンサーを活用した手法により、迅速かつ網羅的に病原ウイルスを探索することを目的とする。</p>				
概要	<p>①病原ウイルス探索法の準備(検査試薬、解析に使用するリファレンスゲノム配列等)</p> <p>②感染症発生動向調査(病原体定点)において、従来の手法で病原ウイルスが確認された検体で次世代シーケンサーを用いた検査方法の検証を実施する。</p> <p>③感染症発生動向調査(病原体定点)において、従来の手法で病原ウイルス不検出となった検体で②で検証した方法を用いて病原ウイルスの探索を試みる。</p> <p>④検査法マニュアルの作成等。</p>				
年次計画	令和5年度	令和6年度	令和7年度	年度	
	① → ②	③	④		
倫理委員会	要・不要	年月日	年月日	番号	
		意見結果	<意見等>		
期待される成果	次世代シーケンサーを活用した検査方法により、迅速かつ網羅的な病原ウイルス探索が可能となり、原因不明感染症等に対する検査能力の向上が期待される。				
備考					

(注1) 分類は別途定める調査研究の体系図に基づく分類記号(A, B, C...)

(注2) タイトルは、対外的にわかりやすいものにし、専門用語等を使う場合はサブタイトルをつけること。

(注3) 期待される成果については、行政施策への提言・反映目標及び市民への還元目標等を記載すること。

(注4) 関係部局及び共同研究者については、備考に記載すること。

(注5) 国の補助金等予算措置がある場合には、備考に記載すること。

調査研究実施計画書

		分類	L		
タイトル	福岡市における環境水中の抗菌薬の実態調査				
担当課・ 担当者氏名	環境科学課 宮崎 悦子、嶋田 誠、井戸下 風花				
調査研究期間	令和5年9月～令和7年度				
目的及び必要性	<p>当所では、平成22年～26年にかけて環境汚染物質として水環境中の医薬品等(PPCPs*)の実態調査を行ってきた。平成28年には厚労省通知「新医薬品開発における環境影響評価に関するガイダンス」が発出され、化審法対象の化学物質や農薬等と同様に、ヒト用医薬品についても環境への影響評価が求められることになった。一方、環境中の抗生物質、抗菌薬等に対しては薬剤耐性の問題も懸念されており、国の薬剤耐性アクションプランや福岡県ワンヘルス推進行動計画に基づく薬剤耐性菌対策の取組みが始まっている。そこで、実態調査から概ね10年が経過した現在の福岡市において、既存医薬品のうち、年間使用量やヒトによる体外排泄量が多く、分解も進みにくいと考えられる抗菌薬等に着目し、LC-MS/MS法による分析法の検討を行うとともに、環境中の実態を調査する。</p>				
概要	<p>分析対象の抗菌薬は、過去の本市の調査及び環境省のエコ調査で検出実績があり、酸化及び下水処理での分解が進みにくいとされている、マクロライド系抗生物質「クラリスロマイシン」を第一候補とし、他の抗菌薬等も検討の上、環境中での存在実態を明らかにする。</p> <p>1 LC-MS/MS法による分析法の検討 前処理方法等の検討を行い、分析法の精度確認(定量下限値、添加回収試験)</p> <p>2 福岡市内の環境水を採取し、抗菌薬等の実態調査を行う。</p>				
年次計画	令和5年度	令和6年度	令和7年度	年度	
	分析法の検討(LC-MS/MS) ↓ 実態調査 計画立案 ↓ 実態調査(1年間)				
倫理審査	要・ <input checked="" type="radio"/> 不要	審査年月日	平成 年 月 日	審査番号	
		審査結果	非該当	<意見等>	
期待される成果	<p>国の薬剤耐性アクションプランや福岡県ワンヘルス推進行動計画に基づく薬剤耐性菌対策の一環で、ワンヘルスアプローチによる環境分野の取組みとして、環境水中の抗微生物薬の存在実態の把握をすすめ、普及啓発などの施策につながる基礎資料とする。</p>				
備考	*PPCPs: Pharmaceuticals and Personal Care Products				

(注1) 分類は別途定める調査研究の体系図に基づく分類記号(A, B, C・・・)

(注2) タイトルは、対外的にわかりやすいものにし、専門用語等を使う場合はサブタイトルをつけること。

(注3) 期待される成果については、行政施策への提言・反映目標及び市民への還元目標等を記載すること。

(注4) 関係部局及び共同研究者については、備考に記載すること。

(注5) 国の補助金等予算措置がある場合には、備考に記載すること。